

# 胃内視鏡検査（FAX 予約）についての説明書（資料 4）

## 《検査の目的》

- ・ 食道・胃・十二指腸の病変の有無を調べるために行います。特に食道がん、胃ポリープ胃潰瘍、胃がん、十二指腸潰瘍の診断に対しては必須の検査です。必要に応じて粘膜の一部を採取する場合があります。一時的に出血しますので、血液を固まりにくくする薬（ワーファリン、アスピリンなど）を服用中の方は、あらかじめ申告してください。

## 《検査の具体的方法》

- ・ 胃の中をきれいにする薬を服用し、喉に麻酔をする薬を含んで麻酔します。必要に応じて胃の動きを抑える薬を使って検査を円滑に進めます。
- ・ 必要に応じて眠り薬（鎮静剤）を使用します。これに関しては当日問診時に確認します。  
但し、眠り薬の使用した後の車の運転は危険を伴うため、ご遠慮ください。  
検査の後、お車を運転した場合に起こった事故に関して、当院では責任を負いかねますのでご了承ください。鎮静剤使用後は1時間休んでから帰宅となります。
- ・ 胃カメラは口から挿入し、食道から十二指腸まで観察し、病気の有無を確認します。
- ・ 病変を認めた場合には、病変の一部を採取して、顕微鏡で良性/悪性の鑑別をします。  
（生検検査）

## 《検査に伴う合併症とその危険性や後遺症》

- ・ 内視鏡を挿入する際に喉を傷つける可能性があります。  
ほとんどの場合、時間が経てば治ります。また、稀に歯が折れることもあります。
- ・ 病変を認めた場合、生検検査を行います。これにより出血する可能性があります。  
通常は、すぐに止血しますが、なかなかとまらない場合は内視鏡を使って止血処置を行います。稀に輸血や緊急手術が必要となる事があります。
- ・ 咽頭、食道、胃、十二指腸が破れる事があります。全国の集計では5万分の1の確立です。
- ・ 治療中の病気（脳梗塞、心臓疾患など）の悪化
- ・ 全身状態の悪い患者ではショックを起こし、呼吸停止になることもあります。  
こうした合併症が起こる確率は全国集計では0.007%（14000人に1人）であり、またこの検査での死亡率は0.00045%（22万人に1人）でした。
- ・ 眠り薬を使った場合、その場で説明した内容を後になって全く覚えていないということがあります。（逆行性健忘症）

## 《検査後の注意》

- ・ 食事は検査後1時間から可能ですが、水を飲んでむせないことを確認してからにしてください。

### 《検査を受けなかった場合の経過予想と予後》

- ・ 検査を受けなかった場合、病気を見逃す可能性があり、これにより生命に関わる場合があります。

### 《他にとりうる検査の有無》

- ・ バリウムによる胃透視検査があります。しかし、胃透視検査では異常を認めた場合、上述のような生検検査をおこなう事ができないため、良性悪性の鑑別ができず、詳細が分からない事があります。

### 《当院での実績》

- ・ 2023年は約3364件の胃内視鏡を施行しました。検査が原因で穿孔や出血などを起こし、緊急手術および死亡した症例はありません。

### 《医療の安全性について》

私たち、病院職員は、全ての方が安全で最適の医療を受けていただくことを願っております。そのためには、ご自身の受ける医療の本質について理解されることも不可欠と考えています。下記は私たち医療者が理解する医療の本質です。このような本質も、私たちが説明させて頂いております医療行為の基盤になっていることをご理解願えれば幸いです。

1. 医療は病気の回復を最終目標として行われるものです。しかし、医療行為が、目的に合う結果を100%という確実性をもって保障されているということは、あり得ないのが事実です。その意味で、医療は本質的には不確実性をともなう行為ともいえます。
2. 上記の理由から、医療行為により意図しない身体および精神のダメージが起こることが（確率的には極めて少ないかと思いますが）、あり得ます。通常であれば、当然のこととして医療による利益がダメージの不利益を上回ります。しかし時として、重大な合併症や事故が過失（ミス）無しに起こることがあります。また医療行為と無関係の病気や加齢を基盤とする機能異常が医療行為の過程で発生することもあります（偶発症）。合併症や偶発症が起こった際には、治療に全力を尽くします。しかし治療の甲斐なく、残念な結果に至ることがあり得ます。
3. 予想される合併症については、極めて稀なものや予想外のものもあり、全ての可能性を説明し尽くすことは現実としてできません。こうした医療の不確実性は、生命の複雑さと有限性、および、各個人の多様性に由来するものであり、低減させることはできても、消滅させることはできないものです。
4. 私たちは、よりよき患者・医療者のパートナーシップを築き、強い信頼関係のもと、安全で最適な医療を提供させていただくために、あえて、医療の不確実性の意味も知っていただきたいと考えております。そのことが、相互理解に深くかかわってくるものと思います。医療にはこうした限界があることを承知した上で検査当日、同意書に署名してください。